

# 福祉みやぎ

11 2017 月号  
vol.594

福祉みやぎ

vol.594

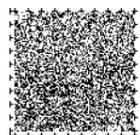
平成29年  
11月15日  
発行

## 「みんなの海で なかよく」

■ 作者：石巻市立蛇田小学校  
6学年 齋藤陽生 / 5学年 遠藤愛佑 近藤孝賢  
坂下梨音 / 4学年 後藤凧紗 佐々木葵衣  
3学年 / 近藤健琉 / 2学年 木村心奏 中村陽葵  
1学年 / 橋本莉旺  
10名の子どもたちがそれぞれ気に入った木の葉で魚の版を作り、魚たちがなかよく泳ぐ海の様子を表現しました。布や野菜なども使って、楽しい作品になりました。



## CONTENTS (主な内容)



- P2 特集 里親制度ってなんだろう  
～あなたも里親になりませんか～
- P4 Heart&Works  
「ねんりんピック秋田2017!」
- P6 ひと・まち・こころ
- P7 キラリ☆仕事人

- P8 ちいきをつなぐ
- P9 市町村社協のここがイチオシ!
- P10 復興宮城のいま
- P11 みやぎいきいきシニアだより  
相談Q&A
- P12 県社協掲示板

編集・発行/社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139  
印刷/株式会社ソノネ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-sk.net>

## 県社協掲示板

Information



### 温かい真心をありがとうございます

下記の方々から、本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成29年10月5日現在)

平成29年8月8日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために	63,513円
平成29年9月6日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために	69,946円
平成29年10月5日 株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために	65,447円

### お詫びと訂正

平成29年9月15日発行の広報誌「福祉みやぎ」9月号の記事「県社協掲示板」において、(株)ブリッジ様から頂戴した金額に誤りがございました。

誤)平成29年6月7日 56,660円、平成29年7月6日 70,546円  
正)平成29年6月7日 61,353円、平成29年7月6日 70,540円  
以上のように訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

### 宮城いきいき学園 平成30年4月入学生募集!

生きがいと健康づくりのための必要な知識を身につける楽しい学びの場です。

対 象 県内居住のおおむね60歳以上の方  
場 所 ①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校  
※通学可能であれば、どちらの学校に申し込んでも結構です。  
募集人員 各校40人  
学 習 日 年間22日(2学年制)  
入学金・受講料等 入学金：5,000円 受講料：20,000円(年間)

募集期間 平成29年12月1日(金)から平成30年2月28日(水)まで  
申 込 書 各市町村の福祉担当課、生涯学習担当課、社会福祉協議会、および本会ホームページから入手できます。  
【申し込み・お問い合わせはこちら】  
宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課  
電話 022(225)8477

宮城県社会福祉協議会

「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧いただけます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

この印刷物は、植物油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



## ジョブ・カード制度

経営者の皆様へ

# 有期実習型訓練の活用のお勧め

～自社のニーズに合った人材を育成できます!～

ジョブ・カードとは

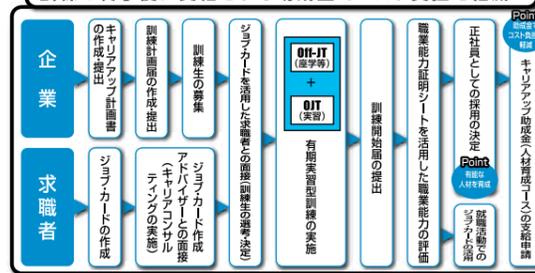
求職者の職業能力を証明するA4判の大きさの3種類のシート(①キャリア・プランシート、②職務経歴シート、③職業能力証明シート)です。履歴書などにはない求職者に関する詳細な情報が記載されているので、短時間の採用面接では分からない求職者の職業能力やレベルなどを客観的に判断できます。

有期実習型訓練とは

ジョブ・カードを活用したOff-JT(座学等)とOJT(実習)を効果的に組み合わせた3か月以上6か月以内の職業訓練。有能な人材を育成したい企業と正社員の経験が少ない求職者とのマッチングを促進する国の制度です。訓練を実施する企業では、訓練期間を通じて訓練生の適性や職業能力などを判断し、入社、正社員として採用雇用できることから、採用時のミスマッチや早期離職のリスクを軽減できます。加えて、一定の条件を満たしている場合は、訓練の終了後に国からキャリアアップ助成金(人材育成コース)が支給されるので、訓練の実施に要するコスト負担を軽減できます。



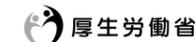
訓練の終了後に支給される助成金でコスト負担を軽減!



※上記のフロー図は、訓練生を新たに雇い入れる場合の例です。

宮城県地域ジョブ・カードセンター  
〒980-8414 仙台市青葉区本町2-16-12 仙台商工会議所内  
TEL:022-212-4777 FAX:022-211-0720

宮城県地域ジョブ・カードサポートセンター  
〒988-0084 気仙沼市八日町二丁目1-11 気仙沼商工会議所2階  
TEL:0226-24-4961 FAX:0226-24-4962

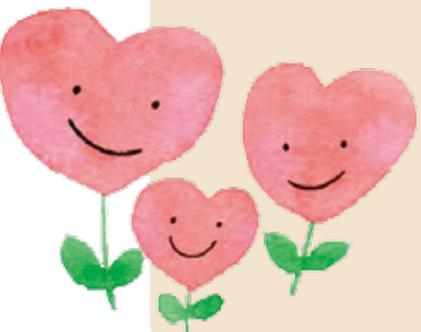


全国各地の地域ジョブ・カード(サポート)センターでは、ジョブ・カードを活用した有期実習型訓練を実施する企業を支援しています。下記の商工会議所のホームページでは、有期実習型訓練の企業での活用事例を文字情報と動画で紹介しています。  
詳細はwebで [ジョブ・カード制度](#) [検索](#)  
日本商工会議所(ジョブ・カード事業) <http://www.jc-center.jp/>  
厚生労働省(ジョブ・カード制度総合サイト) <http://jobcard.mhlw.go.jp/>



# 里親制度ってなんだろう あなたも里親になりませんか

宮城県なごみの会（里親）会長 卜蔵康行



## 社会的養護とは

「すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる」。これは昭和26年に制定された児童憲章の言葉です。子どもは、親の温かい愛情のもと、家庭という子どもにとって当たり前前の生活の場で育っていくことが望ましいのは言うまでもありません。

平成29年8月17日、厚生労働省は平成28年度の児童相談所への児童虐待通告件数の速報値を公表しました。その数は、122,578件。前年度と比較して18.7%の増加率となっており、少子化にも関わらず毎年増

加の一途をたどっています。

平成28年度の特徴は、DVによる警察からの通報の増加。子どもの目の前で父親が母親に対し暴力をふるうものであり、宮城県でも同様に面前DVによる通告件数増加の傾向が見られます。このような虐待や親の病気、貧困、育児放棄など、さまざまな理由により親と暮らすことのできない子どもたちがいます。全国でおよそ45,000人、宮城県内でも500人を超える子どもたちが実親と生活できず、里親家庭と施設で暮らしています。こうした実親のもとで生活することのできない子どもたちに対し、社会が責任をもって実家庭に代わる適切な養育環境を用意することを社会的養護といえます。第一義的には、国と都道府県、政令指

定都市がその責任を持つことになり

## 里親制度の概要

社会的養護には、大きく分けて家庭養護と施設養護があります。家庭養護には、里親とファミリーホーム、施設養護には、児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設などがあります。日本では、施設養護の割合がたいへん高くおよそ84%、家庭養護の割合はおよそ16%となっています。国の施策の中では、今後十数年かけて家庭養護の割合をおよそ1/3に引き上げるとい目標が掲げ

られています。

昨年（平成28年6月）

施行された改正児童福祉法では、子ども家庭

支援について、(当然のことですが)

まずは在宅での実家庭支援を第一とすること、つまり、子どもが家庭において健やかに養育されるよう、保護者を支援することが原則であることが明記されました。そして、それがかなわないときには、里親とファミリーホームへの家庭養護優先の原則が法定化されました。

里親制度は、社会的養護を必要とする子どもを里親自身の家庭に迎え入れ、愛情と子どもへの理解をもって養育するという制度です。里親になるには、特別な資格や条件はありませんが、社会的養護への知識と理解、子どもへの養育のスキルが必要とされます。また、何より里親制度が子どものための制度であるということをしつかり心に留めておくことが必要です。

里親には、養育里親、専門里親、養子縁組里親、親族里親の四つの種類があります。

<b>養育里親</b>	家庭での養育が困難になった子どもを家庭に迎え入れて育てる里親
<b>専門里親</b>	虐待や非行、障害などの理由により養育に課題のある子どもを育てる里親。専門的な研修受講など一定の条件があります。
<b>養子縁組里親</b>	養子縁組を前提とした里親
<b>親族里親</b>	実親の死亡や行方不明などで養育できない場合、3親等以内の親族がその子どもに限って育てる里親

## 里親になるための手続き

里親になるための手続きは次のとおりです。

### 1. 相談・申請

お住いの居住地を管轄する児童相談所に相談の上、登録申請を行います。

### 2. 研修受講と調査

里親登録に必要な基礎研修と登録前研修を受講します。その上で、児童相談所の児童福祉司、里親担当が訪問し家庭調査を行います。

### 3. 審査と里親認定・登録

社会福祉審議会での審議を経て、

知事が里親認定の決定を行い、里親名簿に登録されます。

### 4. 委託

子どもの状況や里親の意向などを考慮し、子どもにとって最適と思われる里親に面接、外泊などを経て委託されることとなります。

## 里親制度の課題

里親制度が進展しない理由の一つは、一般市民の方たちによく知られていないということにあります。里親制度が養子縁組のための制度であるとの誤解は広くあるように思われます。制度の普及・啓発を進め、里親制度が、子どもの家庭での育ちを保障するための制度であることの理解を進める必要があります。同様に、地域社会で里親家庭への理解が深まっていくことが大切です。子どもは多くの場合、里親家庭に委託されることにより転校することになります。新しい地、新しい学校での生活は当然、子どもにとって負担を伴うこととなります。子どもが多くの時間を過ごす学校や、近所の理解は、子どもが安心・安定した生活を送る

ために不可欠なものです。家族の形態が多様化する現在において、一つの家族の形として里親家庭が地域に受け入れられることが必要です。もう一つの大きな課題は、里親支援の問題です。被虐待経験、障がい、思春期年齢の子どもの委託など、子どもの背景にある課題は、複雑になってきています。一方、里親に対してまず第一の支援者である児童相談所は、虐待対応の増加など日常業務の多さ、忙しさの中、里親支援に十分な時間をとることが難しくなってきています。また、行政であるがゆえに、担当者の定期的な交代という避けては通れない問題があります。

## みやぎ里親支援センター けやき

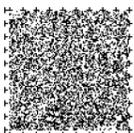
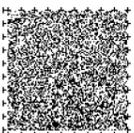
上記の課題軽減のため、宮城県では、県独自の補助事業として、平成29年1月より里親等支援センター事業を始めることとなり、宮城県なごみの会と社会福祉法人仙台キリスト教育児院が共同で受託し、「みやぎ里親支援センターけやき」として活動を開始しました。

里親制度の普及啓発・里親支援強

## おわりに

県内各地で里親制度説明会を開催しています。里親制度を身近なこととして感じていただいて、ご参加願えればと思います。地域にある里親家庭をぜひ応援ください。

**みやぎ里親支援センター  
けやき**  
住所／仙台市青葉区  
東照宮1-13-34  
電話／022-718-1031  
FAX／022-343-8144



# Heart & Works

## 『ねんりんピック秋田2017』大会レポート シニア世代の健康と福祉の祭典



宮城県選手団役員の応援記  
「支え合い」、「称え合い」、果敢  
に挑んだ秋田県での4日間

今年の宮城は冷夏でしたが、ねんりんピック秋田大会に挑んだ選手は、晴れの舞台ではつらつとプレーし、私たち関係者だけでなく、会場に詰めかけた方々にも大きな感動を与えてくれました。そんな選手の方々に応援しようとして競技会場を回って感じたことは「仲間とのつながり」の強さでした。試合の際には、勝利を目指して「頑張れ、頑張れ」。味方選手同士で支え合い、気持ちよく競技に挑めるよう、選手同士、笑顔で送り出します。そこには、普段からの努力も含めて「互いに認め合う」仲間との強い絆を感じました。試合の後には勝っても負けても「頑張ったね、良かったよ」と相手選手を労い、勝敗に関係なく、お互い笑顔で称え合っていました。ねんりんピック選手の方々に、長年努力されている理由について

「秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第30回全国健康福祉祭あきた大会（愛称：ねんりんピック秋田2017）」が、平成29年9月9日から12日までの4日間にわたり、秋田県13市3町1村を舞台に開催されました。全国から一万人近い選手が集まり、宮城県からは強豪揃いの185人が25種目の競技に参加しました。

笑顔・絆・健康長寿、まごころ、夢ふくらむ秋田へ

宮城県選手団は総勢192人（役員7人含む）。総合開会式及び卓球・テニス・剣道・将棋など25種目の競技に参加するため、9月8日に仙台駅から秋田に向け出発しました。出発当日は快晴で和やかな雰囲気の中、予定どおり秋田に到着することが出来ました。

お問い合わせすると、「好きだから、続けてきただけ」とお答えになる方が多くいらっしゃいます。しかし、選手の方々は、競技を続けてきたことで健康を維持してきただけでなく、何より全国の方々と「つながりあえる」喜びを知っているのです。

秋田県内各地で、25種目に参加した宮城県選手団。種目ごとのチーム内はもちろんですが、種目が違っても顔見知りがある。選手同士が和気あいあいと、団結力は全国1位です。選手が果敢に挑んだ秋田県での4日間は、大変素晴らしい時間でした。

ねんりんピック富山2018！  
来年で31回目を迎えるねんりんピックは、富山県を舞台に11月に開催予定です。  
来年も、宮城県選手団の活躍を期待しています！

選手たちは日々の練習で鍛え上げられた肉体と頭脳を武器に白熱した競技を繰り広げ多数の上位入賞を果たしました。更に、競技を終えると対戦相手と積極的に労をねぎらいながら絆を深めていました。

かわいい応援団！  
まごころキッズ！

開会式待機場の補助陸上競技場には、元気はつらつな子どもたちが「宮城県、ベストをつくせ！」の応援横断幕を掲げてお出迎えしてくれました。

出迎えてくれたのは、秋田市の河辺小学校5年生の児童7人です。

事前に宮城県の自然や文化・歴史を学び、孫世代からの応援とあつて選手たちは大変励みになりました。お礼として、選手たちから児童へプレゼントを手渡しました。

宮城県チーム  
上位入賞続出

宮城県チームは複数の種目において上位入賞を果たしました。マラソン（女子3キロの部）優勝、サッカー（Fブロック）優勝、グラウンドゴルフ（男性の部）優勝、弓道3位と輝かしい成績を残しました。参加した選手からは「とても楽しかった！また参加したい」「優勝はできなかったが、さまざまな交流を図ることができて感無量です！」と話し、充実した大会となりました。



かわいい応援に笑顔がこぼれます



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度  
**宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい**

- ポイント1 社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。
- ポイント2 地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。
- ポイント3 団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。（一部適用外）

お問い合わせ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 TEL022-225-8476  
三井住友海上火災保険株式会社 TEL022-221-3171  
株式会社オンワード・マエノ TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

ご不明の点はお問合せください！



## じぶんを元気にできる 居場所に！

### トゥインクルたがじょう



▲エニアグラムセミナー

トゥインクルたがじょうは、震災後の生活の中で、社会とのコミュニケーションに不安を抱えている方など、多賀城にお住まいの方ならどなたでも気軽に利用することができる多目的交流スペースです。またトゥインクルたがじょうの他に、お住まいのことや生活でさまざまな悩みを抱えている方の相談窓口として、市役所の中に自立相談支援窓口もあります。多賀城市から委託を受けて運営を一般社団法人パーソナルサポートセンターが行っています。

現在、市の自立相談支援窓口などをおして利用されている方が多いです。その中には家庭や学校、職場などでつらい思いを経験し、社会から孤立してひきこもり状態になっている方がいます。ひきこもり状態というのは「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことを呼びます。要因はさまざまなものが背景となつていますが、そのような家族も含め自分だけではなかなか解決できない状態になり、生活する意欲も失いかけている方の日中の居場所としても利用されています。現在4名いるスタッフは、まず利用者さんの気持ちに寄り添うことを一番大事にしています。「来てくれてありがと」から1日がはじまり、「また来てね」で終わる。繰り返し利用していただき、スタッフや他の利用者さんと一緒に過ごすことが社会とのつながりの一歩と考えるからです。そのためにも皆さんが安心して暮らすための心掛けていきます。目標に向かう意欲と勇気を持っていただけたら

にも、この場所にきて安心してという気持ちになつていただきたいと思います。お茶を飲みながら興味のあることについて雑談をしたり、カードゲームをして笑いあったり、一見遠回りのように思えることも、利用者さんにとって心地良さを感じていただくことで自分を見つめ直すきっかけになつていくように感じます。

利用者さんが少しずつ自分の大切さに気づきはじめることができるよう、プログラムも工夫しています。お茶のみのサロンではゆったりと話ができるように、料理教室ではワイワイガヤガヤと楽しくパソコン講座や陶芸教室では黙々と集中して、といったポイントを意識しています。週1回の清掃活動では地域に出ること、誰かのためになつていくことを理解していただきながら行っています。また個人面談も定期的に行っています。スタッフと個別に話し合いをすることで、今の自分の状況を確認したり、スタッフから自分が認められていると感じていただく機会としています。

利用者さんにとつて自分らしさを取り戻すことは簡単ではありません。でもトゥインクルたがじょうが元気になる居場所になつていきたいと思います。ここで元気を取り戻して、もう一度社会に出てみようかな、と思っただけのよう、スタッフ一同頑張っています。そして社会に出た後もいつでも遊びに来ることができる場所でありたいと思っています。地域にはさまざまな困りごとを抱えている方がたくさんいます。そのような方々に支援していただく機会もあります。トゥインクルたがじょうは、少しずつでも自分が元気になる居場所ということに皆さんに理解していただき、さまざまな理由で社会から離れてしまった方の、社会生活へ復帰する足掛かりとなる活動をしていきたいと思います。



▲地域清掃活動

# キラリ仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、  
ダスキンヘルスレント  
仙台ステーションで福祉用具  
専門相談員として働く、  
渡辺秀樹さんにお話を  
伺いました。

### 現在の仕事内容について教えてください

福祉用具のレンタルをしています。福祉用具とは、高齢者や障害者の自立に役立ち、介護する方の負担を軽減するための用具で、車椅子や介護用ベッドなどがあります。

福祉用具のレンタルをする際は、まずケアマネジャー（介護支援専門員）や地域包括支援センターから依頼をいただくことが多いです。例えば、お客様が病院から退院され家に戻るときなどに連絡を受け、身体状況（体形や病状、ご自宅の間取りなど）を聞きとり、その方に合う福祉用具を何種類か選んでご自宅までお持ちします。福祉用具の選定は、お客様

### 仕事をされる上で配慮している点はありますか

福祉用具は使い方を間違えると怪我や事故に繋がります。最近では介護をする側の方も高齢であることが多く、使用時の説明などは丁寧に言うようにしています。

また、お客様が抱えていらつしやる病気の進行速度、どのように身体機能が衰えていくかなどはさまざまです。介護保険制度もどんどん変わつていくので福祉用具以外の勉強も欠かせません。社内外の研修も多くあり、職員一同スキルアップに励んでいます。

### 今の仕事に就いたきっかけを教えてください

学生時代に福祉関係の本で福祉用具について知り、その可能性を感じました。例えば、車椅子一つで、それまで終日ベッドの上で生活されていた方が外出をしたり、1人で移動できるようになつたりと、たった一つの福祉用具でその方の生活が広がっていく、世界が変わるといふところに興味を持ち、今の仕事を志すようになった。

### やりがいを感じる場面を教えてください

やはり、お客様が「ありがと」と嬉しそうに福祉用具を使っていたことが、一番嬉しくやりがいを感ずるところです。急な依頼も多く、即日対応を求められるなど大変な場面もありますが、お客様が福祉用具を利用されることで、今後の生活が少しでも自立して快適な毎日になるようにとの思いで取り組んでいます。

### 同じ仕事を目指す方へ一言お願いします

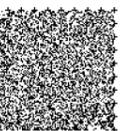
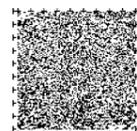
「福祉用具専門相談員」というと、「道具の仕事」と思われてしまいがちですが、基礎にあるのはコミュニケーションです。お客様や他職種の方々のやり取りによって、その方の状態に一番

## ダスキンフランチャイズチェーン加盟店 三恵商事株式会社

＜ダスキンヘルスレント＞  
ダスキンヘルスレントでは、自立に役立ち、介助する方の使いやすい福祉用具を適切にご提供することで、快適な毎日を応援しています。お申込みからアフターケアまで「安心」と「信頼」のシステムで快適な毎日を応援します。



お問い合わせ先  
＜仙台ステーション＞  
〒984-0821 仙台市若林区中倉2丁目19-17  
電話 022-239-7151



## 居場所をつくり、絆を育む

居場所づくりと世代間交流を目的とした大河原町社会福祉協議会の取り組み

近年、ライフスタイルの変化や、価値観の多様化から、地域の間関係が希薄化しています。そのような中、多様で複雑な問題を抱えている方が多く、住民同士がつながり、支え合い、ともに解決していく力が求められています。

今号では、地域住民が気軽に集える居場所と、子どもから子育て中の親、高齢者などあらゆる世代の交流を目的に「コミュニティカフェ リアン」を開設した大河原町社会福祉協議会（以下「大河原町社協」）の取り組みを紹介します。



場所は大河原町社協の事務所がある大河原町福祉センターの会議室。開催日は社協主催の生活相談が開催される月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）。また、年に4回、オープンカフェとしてイベントを行っています。7月に開いた子ども向けの縁日では、500名を超える親子連れで賑わいました。中学生や高校生にもボランティアとして参加頂き、大いに盛り上がりました。大河原町社協では、こうしたイベントを通じてさまざまな世代が交流する機会を大切にしています。

**誰もが気軽に集える場を**  
超高齢社会の到来や、核家族化の進展により、大河原町では一人暮らしの高齢者が10年前に比べると2倍弱増加しました。また、住民同士のつながりが希薄化し、地域から孤立している方々も多くみられるようになっています。このような現状を危惧した大河原町社協では「地区ごとに行われている月1回程度の集まりには、なかなか行けない、行きづらい、という人もいます。誰もが気軽に集える場所を作ろう」という話になり、今年4月にコミュニティカフェリアンをオープンしました。

**支え合いの地域へへんへ向けて**  
フランス語で「絆」を意味するリアン。水戸さんは、「ボランティアも含めて誰もが自由に集まれる場として利用していただき、そこから生まれる絆を大切にしながら地域の支え合いが深まることを願っています」と話されています。今後は外出が苦手な方、長距離の移動が困難な方でも気軽に足を運べるよう、住民が集うことのできる場を町内に増やしていく予定のことと。地域住民のつながりを作り、支え合いの大切さを伝えていく大河原町社協の今後の展開に期待しています。  
(宮城県社協取材)



▲カフェの様子  
和気あいあいとそれぞれの時間を過ごしています。

### 大河原町社会福祉協議会

人口/23,640人  
(平成29年9月1日現在)  
社協職員数/19人



「ここに住む人がお互いに支え合い暮らしやすい地域をめざします」を基本理念に子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、人と人のつながりを大切にしたい取り組みを展開しています。

## ちいきをつなぐ



▲キッズルーム  
フリースペース（無料）の一つ。来館者やご近所の方に好評です。

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

市民・行政・企業・NPO・学校などさまざまな団体が地域生活課題の解決のために、関係機関と連携し解決を図ることが求められています。宮城県内には、地域社会やNPOなどが地域づくり活動などを推進するために必要なアドバイス、きめ細やかな情報提供やコーディネートなどのサポートを行う中間支援組織が12箇所あり、各地域で市民活動・社会貢献活動をサポートしています。

今号では、平成21年1月に開設し今年で8年目を迎える栗原市市民活動支援センターにスポットを当て、栗原市の中間支援組織としてどのような役割を担っているか、その機能や取り組みをご紹介します！

ボランティア・市民活動団体の中には、打ち合わせなどを行う場所（会議室）の確保に困っている団体が多いのではないのでしょうか。栗原市市民活動支援センターには、これら団体に低額で貸す会議室・事務所や栗原市内・外の団体の活動について情報収集できるコーナーが整備されています。

また、キッズルーム・交流サロン・ミーティングスペースといった、さまざまな用途に無料で活用できる「場」も用意し、活動の後押しをしています。キッズルームは、打ち合わせで来館した子育て世代のボランティア・市民活動者の方々が活用するだけでなく、なかなか室内で子どもを遊ばせるスペースが無いという子育て世代の方にも喜ばれているとのこと。さまざまな方が気軽に集える場となっています。

館内設備を利用できるのは、非営利団体に限定されていると

たくさんの方が集まり  
交流する「場」となるように

ころが多いのですが、栗原市市民活動支援センターは営利団体の方々もご利用できるとのこと。門戸を広げてさまざまな方に幅広く場を活用していただけるよう、拠点としての機能を充実させていきたいとの思いが伝わります。

**みんなが主役になれる「場」づくり**  
栗原市市民活動支援センターの指定管理者NPO法人Azumareは、コミュニティの活性化・まちづくりにも力を入れており、今年度は、コミュニティづくりと会議手法をテーマとした市民活動促進セミナーを開催します。また、月1回開催予定のまちづくりカフェでは、子どもと一緒に季節の遊びを楽しんだり、地元のおつと驚くようなポイントをみんなで巡るまち歩きを企画中とのこと。地域の中で埋もれている、身近にあるのに知っているようで知らなかったことにスポットを当て、楽しみながら繋がりあい、さまざまな人が主役になれる場をつくっています。



▲ミーティングスペース  
フリースペースの他、リーズナブルな料金で、簡易事務室・会議室などの貸し出し、印刷室などを利用できるなど、活動のサポートが充実しています。

「今年度から、これまで手書きで作成していたセンター便り」あなたが便り」をリニューアルし、より多くの市民に読んでいただけるよう工夫をしています」と話してくれたのは、センターチーフスタッフの高橋さん。また、近隣施設が休館日も利用できるよう、開館日時を変更するなど、「常にボランティア・市民活動者の目線に立ち、市民のまちづくりを応援していきたい」という意気込みも伺えました。

たくさんの方が集まり、交流し、みんなの夢が育つ「場」づくりに進める栗原市市民活動支援センターを、ぜひ訪れてみませんか？  
(宮城県社協取材)

## 宮城県内市民活動支援センターの紹介 みんなの夢が育つ場所 『栗原市市民活動支援センター』

# 子どもの力は 地域の力

ふだんの暮らしの中で災害時にも役立つ力を 育み、支えあう地域を目指して

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン



▲七ヶ浜町世代間交流事業での防災クイズ  
「問題です。水無しでも使えるシャンプーがある。○か×か？」

「コミュニティ・4・チルドレン（以下「C4C」という。）は、子どもが育つコミュニティを目指し、アジアの子どもたちを取り巻くさまざまな課題解決のため、日本を含むアジア各国で活動を行っています。本部は大阪ですが、東日本大震災を契機に地域の福祉・防災学習の取組みを宮城県で展開するため、平成24年の6月から地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業を開始しました。

震災直後、小学生、中学生が避難所や地域の力として働いてくれる姿を見た大人たちからは「これからは大人も子どもも一緒になった地域づくりが大事」といった声が多く聞かれました。自らの命と暮らしを大切に作る人づくり、災害時だけでなく、普段から気づきあい、支えあう地域づくりを目指す福祉・防災学習を応援するため、C4Cの福祉・防災学習コーディネーターは、地元の社協、NPOなどと一緒に福祉・防災学習計画づくり、学習会の企画協力や合同開催、また講師として、幅広い世代を対象とした学びに向けたお手伝いをしています。

一例として、七ヶ浜町社会福祉協議会の世代間交流事業で防災をテーマに取り上げた年には、震災時に大変だったことや必要と思ったものなど、地元の方々から聞き取り作成した防災クイズを交

えた体験学習を行いました。子どもたちはゲーム感覚でクイズに答えながら大人と一緒に防災を考え、震災の経験や地域のことを学ぼうという内容です。

事業を進めるにあたっては、それぞれの地域に合った福祉や思い描く地域について、地域の方の想いを聞き、イメージを具体にすることは欠かせません。その意味で、地域の特性を理解し、社会資源や人材とも数々のパイプを持ち活動している社協との連携は、社協とC4Cそれぞれのノウハウの相乗効果で、より効果的で継続性のある活動ができると思っています。

このたび、C4Cでは「生活力を高めることは、防災力を高めること」をテーマに、4歳から小学校低学年程度のお子さんがご家族と一緒に楽しみながら、日頃の生活力・いざという時の防災力を高めることを目的とした「家庭の防災ハンドブック」を作成しました。防災というと家具の固定や非常持ち出し袋を思い浮かべる方が多いと思います。もしもの備えが大切なのはもちろんですが、日常の生活の延長線上に災害時に役立つ力があり、子どもの生活力を高めることが防災に繋がることが伝えられるように、楽しく取り組みながら日頃の暮らしを考え、地域の力を高める活動をサポートしていきます。



▲実践者向け勉強会も開催しています



▲家庭の防災ハンドブック  
「おうちで、みんなで、ふだんの暮らしに+1（プラスワン）」

そのために身につけるべき福祉力や防災力について、これからも皆さんと共に考え、悩みながら、未来の子どもたちの笑顔のために、一歩ずつ取り組みを進めていきたいと思っています。（寄稿）

C4Cの活動紹介 <https://www.community4children.com/>

## みやぎ いきいき シニアだより

いろいろなサークルが 皆さんをお待ちしています！

いきいきSUNクラブには、現在27のサークルがあります。定番のパークゴルフや絵手紙教室、ボウリングをはじめ、変わったところでは吹き矢にラフターヨガや遊墨アートといったサークルがあります。そのほかには健康麻雀や手品サークル、民謡、着物着付け、日本舞踊や社交ダンスのサークルもあります。

各サークルは月数回例会を開催し、自分の技術のレベルアップを目指し、楽しい時間を仲間たちと過ごしています。

そんなさまざまなサークルが一同に会し、年に1度仙台市青葉区の福祉プラザで文化祭を開催しています。作品展示やステージ発表を通じて、普段あまりお付き合いの無い会員さんたちがお互いの作品や演技を楽しみます。

また、パークゴルフやボウリングの大会も開催しております。こちらはサークルに入っていないなくてもSUNクラブの会員であれば誰でも参加できます。

たくさんの方のサークルが皆さんをお待ちしております。興味のある方はお気軽に資料請求をしてください。



▲文化祭ステージ発表(平成29年3月29日)



▲文化祭作品展示(平成29年3月29日)

お問い合わせ  
いきいきSUNクラブ事務局  
電話 022 (223) 1171

### 福祉サービスに関する運営適正化委員会

本会で実施している事業について、皆様からのご質問にお応えします

福祉サービスに関する運営適正化委員会とは？

○高齢者、障害者、児童に関するサービスの利用者より苦情や相談を受け付け、事業所や施設と話し合いながら問題の解決を目指すお手伝いを致します。

○この委員会は、法律や医療社会福祉の学識を有する16名の委員で構成され専門の立場から相談や援助を行っています。

○利用者の権利をまもることを目的として宮城県社会福祉協議会に設置された社会福祉法に基づく第三者機関です。



Q 福祉サービスってどんなサービス？

A 高齢者、障害者、児童を対象としたサービスで、事業者から施設や在宅で受けているサービスです。

Q 誰が相談できるの？

A サービスを利用しているご本人や、ご家族、親権者、代理人、職員などの関係者より相談を受けます。プライバシーに関わる秘密は守ります。

Q 匿名でも構いませんが、解決の対応に限りがあります。

Q どんな方法で相談できるの？

A 電話や手紙での受け付け、運営適正化委員会にお越しただいたの相談もできます。受付時間は午前9時から午後5時までです。ファックスやメールは24時間受け付けています。

お問い合わせ先/福祉サービスに関する運営適正化委員会  
電話：022-716-9674 F A X：022-716-9298 E-MAIL：kaiketu@miyagi-sfk.net

